

クりに発生した葉巻き症状の被害

4月～5月上旬に県内の複数の場所から葉巻被害が発生している報告があり、調査を行ったところ、県下全域で同様の被害が認められた。加害種はナラウススジハマキホソガであり、これまで県下で多発した事例はない。

○新葉の被害

- ・葉巻症状は4月下旬頃より見え始め、5月下旬頃まで増加する。6月中旬以降新たな葉巻は発生せず、岐阜県での報告も被害は第一世代の幼虫によるものだけである。



写真1 葉巻症状

- ・ふ化幼虫は葉裏から組織内に潜入し食害した後、組織内より脱出し、1枚の葉を先端から内側へ巻き込みその中で食害する。

○ナラウススジハマキホソガ



写真1 成虫(左)と幼虫(中)、蛹(右)

- ・クリの他クヌギやコナラ等に寄生する。岐阜県でクリでの発生が報告されているが、その後、防除対象にはしていない。
- ・県下全域で発生が確認され、中・南予の山間部が多かった。品種間差は無く、実害は低いと推察。
- ・本種に登録のある薬剤は無い。他のチョウ目害虫に登録のある薬剤を散布したところ、葉巻が発生した後の時期では効果が低かった。